

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	図画工作						授業形態		演習	
科目コード	750087	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	園田 博一								ICT活 用	○
授業概要	本授業では、図画工作の目標と学習内容を理解し、児童の発達段階に応じた造形活動の表現を自ら体感することをねらいとしている。子どもの発達段階を理解しながら、表現の喜び、楽しさを体感してもらいたい。指導者としての立場に立つ自らの技能を高めたい。子どもの表現を理解できるようになるために自ら様々な技法や表現を体験していく。素描や版画制作を通して図工表現の基礎を学ぶ。素描材料や版画における用具体験を通し、技法や制作に関するスキルを高める。練習課題や制作を行い制作発表を行う。ビデオ撮影を行い記録に残す。									
関連する科目	保育内容指導法（造形表現）、教科教育法（図画工作）、図画工作演習 子どもと手作り遊び									
授業の進め方 と方法	本授業では教科を担う上で必要とされる実技に関する基礎的内容を履修する。素描（デッサン）、色彩、描画材料、デザイン、版画について学修する。図画工作を実践するうえで様々な素材や技法を体験することが教師を支える基礎になると考える。習得した技術を駆使し作品制作を行い発表会にて報告する。個人の制作が中心となるが、グループでの協力し合う姿も望まれる。お互いの作品や技術（テクニック）やヒントを出し合い、共同する姿も醸成したい。記録や情報取集にICTを活用し、画像や動画に残していく。鑑賞授業にもつなげていく。									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション、自己紹介、講師紹介 図画工作の目標と内容について解説する。									
授業計画 【第2回】	素描の学習① 描くということ、鉛筆による素描 ・「自己を見つめて」 自画像に挑戦									
授業計画 【第3回】	素描の学習② 鉛筆のできる表現の広がり ・光の表現、陰影をとらえる。 ・グラデーション体験（7段階を描き分ける）、ハッチングという技法									
授業計画 【第4回】	素描の学習③ 立体感の表現 ・白い紙に、円柱・球・円錐表現に挑戦									
授業計画 【第5回】	色に挑戦 ・三原色について（色水を使って） ・混色体験（三色で虹を描こう）									
授業計画 【第6回】	素材体験 ・クレヨンに挑戦（真っ赤なリンゴ） ・スクラッチを体験（夜にきらめく色々）									
授業計画 【第7回】	クレパスによる描画研究 ・静物画（身近な物の組合せ）									
授業計画 【第8回】	デザインの学習 ① レタリング（文字）について（明朝体、ゴシック体）基本を学ぶ。」									
授業計画 【第9回】	デザインの学習 ② 創作文字を作ろう 「宮崎」を創作文字で表現する。 宮崎の風景、特産物（野菜や果物など）で表すとどうなるか創作しよう。									
授業計画 【第10回】	水彩絵の具の塗りについて研究（透明・不透明水彩画法） ・えのぐの特性を知り、その違いを知ろう。									

授業計画 【第11回】	制作① ポスター制作（色々な材料を使って、ふるさと自慢） ・創作文字と、郷土のイラストを使って、ふるさとアピールポスターに挑戦
授業計画 【第12回】	制作② ポスター制作（色々な材料を使って、ふるさと自慢） ・創作文字と、郷土のイラストを使って、ふるさとアピールポスターに挑戦
授業計画 【第13回】	制作③ ポスター制作（色々な材料を使って、ふるさと自慢） ・創作文字と、郷土のイラストを使って、ふるさとアピールポスターに挑戦
授業計画 【第14回】	制作④ ポスター制作（色々な材料を使って、ふるさと自慢） ・創作文字と、郷土のイラストを使って、ふるさとアピールポスターに挑戦
授業計画 【第15回】	図画工作のまとめ ・用具、材料、素材、表現の多様性についてまとめよう。・授業で制作した作品を展示しよう。
授業の到達目標	・図工の基礎実習を通して、表現する楽しさを体感する。 ・表現の基礎となる素描力を身に着ける。 ・子どもの表現を体験し、発達段階の理解につなげる。 ・図画工作科における多様な表現を体験し、表現の幅を広げる。（創作文字とポスター制作）
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	・道具・材料を準備しておく ・ふるさとアピールのための素材収集をする。 ・反復練習を重ねる。（デッサンやレタリング） ・身近なものをスケッチする。（約1時間程度）
授業時間外学習【復習】	授業時間外学【復習】 ・美術館などで行われる展覧会等に積極的に参加、観覧するよう推奨する。 ・身近なものをスケッチする。（約1時間程度）
課題に対する フィードバック	理論的なことを整理し、レポートを提出する。実技実習では制作の取り組み方を評価する。取り組み方への意欲、姿勢を評価する。作品としての完成度高める事。
評価方法・基準	授業中の参加態度と提出課題で採点による。（配点割合：発問等20%、課題作品50%、レポート30%）
テキスト	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編：文部科学省 日本文教出版発行 100円 明日の小学校教諭を目指して子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法 編著 新野貴則 福岡知子：萌文書林 2750円
参考書	『美術による人間形成』 ローエンフェルド 黎明書房 『いっしょに考えよう 図工のABC』 日本文教出版 『図工・美術がもっと好きになる 造形のABC』 日本文教出版 『学びとしての図画工作 題材のABC』 日本文教出版
備考	※実技演習ができる服装が望ましい。（準備内容については、事前に予告する。）